

2021年度・長野陸上競技協会 事業報告

1. 選手強化（競技の研究や選手指導など）。

今年度も国民体育大会が中止となり、強化部の国体強化事業を中心に中止とせざるを得なかった。ただ、東日本女子駅伝、JOCカップ U16U18 陸上競技大会、全国小学生交流は実施され、完全にではないが合宿や練習会を含め事業を実施することができた。全国都道府県対抗駅伝は、男子駅伝が中止となったが、女子駅伝は平均年齢 16.9 歳という学生のみチームであったが、よく健闘し 10 位という結果であった。

2. 普及育成（講習会の開催および指導者の養成など）

各専門部の練習会や記録会について、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を施し、規模を縮小し事業計画により実施した。国スポに向けて、小学生からの選手発掘、中高連携等育成を計画的に実施する必要がある。ジュニア（中学生）の普及強化については、選手育成事業として定期的実施した。

3. 競技会の開催

- ・ 県の大会は参加人数を絞り、無観客にするなどの対策を取り予定どおり実施した。
- ・ 第105回日本選手権大会混成競技、第37回 U20日本選手権大会混成競技を6月に主管した。
- ・ 第64回東海陸上競技選手権大会を8月に開催したが、同日開催の第7回東海小学生大会は直前であったが中止とした。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、審判員当初予定174名は1日目143名、2日目145名に、補助員は100名予定が1日目45名、2日目54名となり、残暑も厳しい中、大変な状況であったが、一致団結し無事終了することができた。

4. 指導者、審判員の養成およびその資格を認定

- ・ 日本スポーツ協会公認・陸上競技コーチ 3 を高見澤勝先生(佐久長聖高校)が取得した。
- ・ 日本陸連公認ジュニアコーチ（日本スポーツ協会公認陸上競技コーチ1）養成講習会を、12月4日(土)・5日(日)に松本平陸上競技場で、県外13名を含む合計63名が受講し取得した。
- ・ S級昇格 2名を日本陸連へ推薦し確定した。A級昇格10名、B級新規取得73名（一般28名・高校・高専 3年生45名）。今年度から開始されたC級は12名の高校生が取得した。
- ・ 2018年度から実施している高校3年生を対象とした講習会を今年度も別枠で実施（地区新人大会時）し、取得を勧めている。

5. 機関紙および刊行物の発行

- ・ 長野陸協要覧2021を4月に発行し、今年度は登録会員全員に無料配布した。
- ・ 創立70周年記念誌を県立図書館へ2冊献本した。
- ・ 長野陸協会報は日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興くじ」の助成を得て、172号 R3年9月1日、173号 R3年12月17日、174号 R4年3月1日を各3000部それぞれ発行した。

6. その他（陸上競技協会の目的を達成するために必要な事業）

- ・ 2028年に開催予定の2巡目長野国民スポーツ大会に向けてプロジェクトを進めた。
- ・ 長野県縦断駅伝について、主催者である信濃毎日新聞社とリニューアルの内容を協議している。本協会ではワーキンググループを設置し検討している。
- ・ 長野陸協各種規程等の見直しを行った。
- ・ 一般財団法人向けガバナンスコードへの対応について、長野県スポーツ協会の「加盟団体ガバナンスコード適合性審査」を受け、「適合」という審査結果を2022年1月24日にいただいた。
- ・ 新型コロナウイルス感染対策室を本協会として設置し、各種大会開催時に対応した。